

令和4年第9回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和4年9月28日(水)
午後2時55分～午後4時10分
2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室
3. 出席した委員
- | | |
|---------|-----------|
| 教 育 長 | 新 子 寿 一 |
| 教育長職務代理 | 山 崎 裕 行 |
| 委 員 | 田 中 保 和 |
| 委 員 | 近 藤 温 子 |
| 委 員 | 西 村 弥 生 子 |
4. 出席した職員
- | | |
|----------|---------|
| 教 育 監 | 中 平 好 美 |
| 福祉こども部 | 森 口 秀 樹 |
| 教育総務課長 | 栗 田 聖 子 |
| 指導課長 | 小 室 吉 昭 |
| こども施設課長 | 石 橋 智 成 |
| 事務局教育総務課 | 塩 谷 行 由 |

5. 議事案件

議案第27号 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について

6. 報告事項

7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長： 定刻より少し早いですが、お揃いでございますので、令和4年第9回定例教育委員会会議を開会します。本日の会議録署名委員は、西村委員です。よろしくお願ひします。次に、事前に送付させていただいております会議録につきまして、ご意見等ございませんか。

委員全員： なし。

新子教育長： それでは、会議録は承認することにいたします。本日の議事に入っております。本日は議案が1件出ております。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、議案第27号について、指導課小室課長より説明をお願いします。

小室課長： 議案第27号令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について指導課よりご説明申し上げます。まず表紙をめくった1ページには本調査の概要を示

しております。調査目的及び調査対象学年はこれまでと変わりはありません。調査内容につきましては、中学校で4年ぶりに理科が実施されました。なお調査問題全体につきましては、下に国立教育政策研究所のホームページのある以下のURLに掲載されています。

2ページをご覧ください。まず全体の平均正答率といたしましては、小学校は国語・算数・理科とも大阪府を上回りました。中学校は、国語・数学ともに全国及び大阪府を上回っております。理科は大阪府を上回りましたが、全国を下回りました。令和2年度を除く過去5年間、全国の平均正答率を1として表した値で全国と比べて推移を見てみますと、小学校のグラフは昨年度と比較すると低下していますが、長期的にみると右上がりに全国に近づいています。中学校では、変動が大きいです。長期的にみると右上がりであり本年度は全国を超えています。同一児童生徒集団による経年比較を見ますと、昨年度を除き、小学校時に比べ中学校時での伸びが見られ、長期的にみると右上がりに全国に近づいております。

続く3ページは、正答率40%以下及び80%以上の児童生徒の割合を、全国の平均正答率を1として表した値でございます。小学校については、正答率40%以下の割合が増加傾向で今年度は全国より多く、正答率80%以上の割合が減少傾向で、今年度は全国値よりも低い結果となりました。中学校においては、今年度、正答率40%以下の割合が減少し、正答率80%以上が増加しています。また、同一児童生徒集団での経年比較より、中学3年生が小学6年生時（平成31年度）に実施した時と比べると、若干ではありますが低位層の割合が低下し、上位層の割合が上昇しております。

4ページからは調査問題ごとの結果になります。まず小学校国語についてですが、学習指導要領の内容「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」「知識・技能」について全国及び大阪府の平均正答率を上回る結果となりました。全体では、大阪府の平均正答率を上回っております。正答率分布では正答数10、12問（中位層）の割合が大阪府や全国に比べて多い結果となっております。

次の5ページをご覧ください。調査問題ごとに課題が見られた設問を各調査結果の後ろに付けております。ホームページ上では拡大して読むことができます。本日は冊子を用意しております。赤の付箋をご覧ください。

この設問は「互いの立場や意図を明確にしながらかつ計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」というものです。話し合いの様子の一部から言葉や文を取り上げて書くことはできていますが、「選んだアイデアの問題点に対する解決方法」を書くことができずに誤答となっている児童が4割いました。このことから、自分の考えを書き、まとめることができていない児童が多いと考えられます。

6ページは算数になります。「全体」の正答率については、大阪府とほぼ同等の結果となりました。学習指導要領の領域では、「変化と関係」が全国及び大阪府より低い結果でした。

次の7ページの課題が見られた設問に表れております。別添資料、青の付箋をご覧ください。これは、数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる

2つの数量の関係について考察することができるかどうかをみる問題です。解答類型を見ると、飲み物の量を求める式や言葉については書けていますが、180mlが30mlの6倍であることを求める式や言葉について書けていないものが多くございました。

8ページは、4年ぶりに実施になりました理科の結果でございます。全体の平均正答率は大阪府の結果上回っておりますが、全国より2ポイントほど下回っています。正答数分布から、正答数13問～15問の中位層から高位層の割合が全国や大阪府に比べて少なく、9問、10問、12問の割合が大阪府や全国に比べて多い傾向がございました。

続く9ページは課題の見られた設問になります。別添資料、緑の付箋をご覧ください。問題を少しご覧ください。光が直線に進むことを理解できていれば、正解の3を導くことができます。正答率については、本市が24.5%、大阪府が26.1%、全国が27.8%でありました。解答類型を見ると「2」と解答しているものが48.2%と多く、問題の意味を正確に理解できていないのか、光が直線に進むことよりも、段ボールの板の形に意識が向いてしまっていたとも考えられます。

続く10ページからは中学校になります。まず国語ですが、全体の正答率および全ての領域・観点・問題形式において、大阪府・全国平均を上回っています。特に、領域「書くこと」においては、全国平均を5ポイント以上上回っており、同一児童生徒集団による経年比較でも、「書くこと」が特に小学校6年次より上がっていることがわかります。

続く11ページは課題の見られた設問になります。別添資料、赤の付箋をご覧ください。府や全国と比較しても正答率が低い訳ではありませんが、すべての問題の中で最も無解答率の高い設問であります。録画された動画を見ながら、助言をしていく二人の会話を踏まえ、「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうか」をみる問題になります。このような問題に対しては、日頃の学習において、実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認したりすることが重要であります。

12ページは数学になります。こちらも国語と同様に、全体の正答率および「図形」以外の領域・観点・問題形式において、大阪府・全国平均を上回っています。同一児童生徒集団による経年比較では、「知識・技能」に課題が見られました。

13ページは課題の見られた設問になります。別添資料、青の付箋をご覧ください。こちらも国語同様、府や全国と比較しても正答率が低い訳ではありませんが、すべての問題の中で2番目に無解答率の高い設問であります。少し問題をご覧ください。出題の趣旨は「結論が成り立つための前提を考え、事柄を見だし、説明することができるかどうかを見取る。」になります。このような問題に対しては、日頃の学習の中で、与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを考えさせること、具体例をあげて調べる活動を通して、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導することが大切であると考えます。

14ページは4年ぶりに実施になりました理科の結果でございます。今回の調査で、全体の正答率は、府平均を上回りましたが、唯一全国平均には届かなかった教科になります。全国平均には届いていませんが、記述式の問題では、府平均よりも4ポイント程度上回っています。前回の理科調査との比較では、「エネルギー」を柱とする領域で、下

回る結果となりました。

15ページは課題の見られた設問になります。別添資料、緑の付箋をご覧ください。実験方法やその結果を確認し、その結果を考察する段階において、作成したグラフをより適切なものに改善するためにどうすればよいかを思考する問題であります。国語、数学同様に、府や全国と比較しても正答率が低い訳ではありませんが、すべての問題の中で最も無解答率が高く、3割の生徒が無解答であります。国研の分析では、平均正答率付近の生徒でも無解答率が3割程度であり、また、平均正答率と生徒質問紙の回答に他の設問のような有意な差がみられない事から、生徒にとって本設問はこれまでにあまり触れたことのない未知の課題であったのではと分析されています。

全体を通しての傾向として、複数の資料を読み取って答えを導き出したり、予想したものと結果などを検証するような探究的な思考が求められたりする設問が特徴的でありました。また、設問の中にICT機器を活用したり、ICT素材を取り入れたりする設問が増加しております。

16ページからの児童・生徒質問紙調査のクロス分析につきましては、「基本的生活習慣等」「学習習慣、学習環境等」「主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に関する取組状況」の3つの観点で、教科の平均正答率が高い傾向にある回答をまとめております。全国的に下記①～⑦のように回答している児童生徒の方が教科の平均正答率が高い傾向が見られます。このあと19、20ページで本市の回答についての分析を記載しております。その他のICT活用関係の項目は、平均正答率との相関関係は指摘されていませんが、⑧～⑨の項目において、本市は府や全国と比較して課題が見られました。こちらも21ページで本市の回答についての分析しております。

17、18ページは本市の児童生徒質問紙調査より、昨年度との経年変化、今年度の対全国の分析を実施した結果でございます。経年につきましては昨年度と比較して+5%以上を○、-5%以上を▼としています。(昨年度との比較のため同一集団の経年変化ではない)対全国につきましては、今年度の全国と比較して+5%以上を二重枠、-5%以上を塗りつぶしで示しています。経年変化より、昨年度と比較すると全体的に小学校は課題が見られ、中学校では改善がみられております。平均正答率の結果をふまえると、質問項目への肯定的な回答と教科の平均正答率には全体的に相関関係があることが見て取れます。

対全国の分析より、全国と比較して特に次の項目に課題が見られます。【基本的生活習慣等】ではゲームやスマホの使用時間、動画視聴の時間が長いこと。【学習習慣、学習環境等】では家で自分で計画を立てる時間が短いこと。平日や休日で学校以外で勉強する時間が短いこと。【ICTを活用した学習状況】では生徒自身が授業中にICT機器を使用する機会が少ないこと。普段スマホ等のICT機器を勉強のために使うことが少ないこと。【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善】では小学校の自分で考えたりまとめたり、児童と話し合ったりする活動が少ないことが本市の課題になっております。

19、20ページはクロス分析より全国的に正答率と相関関係のある項目について本市の状況を示しております。【基本的生活習慣等】の「普段(月曜日から金曜日)、1日

当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」「または動画を見ますか」という問いに対して、柏原市では▼小・中学校ともに、全国と比較して長時間使用している割合が大きい。▼特に中学校は、5～6割程度の生徒が、平日に2時間以上使用している。という結果になっております。興味深いことは、クロス分析で使用時間が短いほど、教科の平均正答率が高い傾向にあるのですが、中学校については、「全くしない」「持っていない」生徒の正答率はそれほど高くなく、長時間使用している生徒と同じぐらいという結果もでております。【学習習慣、学習環境等】の土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますかという問いに対して、▼小・中学生ともに、全国と比較して休日に家庭等で学習をする時間が少なく、「1時間未満」「全くしない」と回答した児童生徒が、4～6割にのぼっています。読書は好きですかについては、「好き」と回答している児童生徒は、全国と同等の割合であります。クロス集計では「読書が好き」と回答している児童生徒が教科の平均正答率が高い傾向にあります。【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善】の「前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学級の児童生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、中学校においては、いずれの項目においても全国と同程度の割合で肯定的な回答をしていますが、小学校においては、全国と比較して肯定的な回答をした児童の割合が少し小さい結果となりました。クロス分析では、いずれの項目においても、肯定的な回答をしている児童生徒の教科の平均正答率が高い傾向にあります。

21ページをご覧ください。ICTを活用した学習状況の全国・府との比較になります。それぞれの授業中でのPC・タブレットの使用場面において、特に中学校において全国や府と比較して活用が少なく、内容によっては「月1回未満」とほとんど活用していない割合も大きくなりました。小・中学校ともに「月1回未満」と回答した児童生徒の正答率は低い傾向にあります。全国的にもICT活用と教科の正答率との相関性は指摘されていませんが、活用量が十分ではなかったり、活用方法が成熟されていなかったりする可能性をふまえ、検証する必要があると考えます。

22ページは、これらの概要になります。

23ページは、柏原市教育委員会と学校の今後の取組みの方向性と家庭にお願いすることについて記載しております。今年度は新たに、教育振興基本計画とかしわらっ子はぐくみプランを策定いたしました。それらをもとに学力向上推進委員会等をとおして、改善のための取組みに対して支援・指導をしていきたいと考えております。

長くなりましたが報告は以上でございます。ご審議よろしくお願いたします。

新子教育長： ご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

山崎委員： 感想と意見になりますが、お話したいと思います。5ページですが、正答例を見た時にまとめのところに書いてある「【話し合いの様子の一部】から言葉や文を

取り上げて書くことができているが、「選んだアイデアの問題点に対する解決方法」を書くことができずに誤答となっている児童が全体の39.1%いたと。学力も大事ですが、総合的な学習の時間や、あるいは児童会や生徒会や、特別活動の時間などを大事にしていかないと、子どもたちが頭の中で考えるだけではなくて、課題を解決するためにはどうしたらよいかと考えたときに、例えば地域の方々に呼びかけてもらわないといけないとかいうことがなかなか思いつかないと思います。以前学校に行ったときに、最近では児童会や生徒会の活動が弱まっているのかなという気がしました。こういう分野に対しても力を入れていくことは大切だなあと。特に6年生の子どもたちや中学3年生の子どもたち。こういう子どもたちが中心となって学校生活を改善していくというのはとても大事なことなので、こういうところにも力を入れたらよいのではないかというのが感想です。

次に7ページ。ここの算数の問題では計算で答えを出すことはできるが、文章を読み取って解答することができていないわけですね。つまり、授業の中でも文章の読み取りを大事にしていかないと。単に計算問題だけをやりなさいとしているようでは駄目だなと。塾等では非常に多くの文章題が出ている。つまり、考え方のトレーニングを行っている。学校もそのように文章題を多く取り扱った方がよいのではという感想です。

17ページですが、(1)から(69)まで載せていただいてありがたいです。国のホームページを見ればよいのかもかもしれませんが、市教委のホームページを見るだけで分かるのはとても良いことだなと思います。まとめにもありますが、小学校では肯定的な回答がマイナス5%以上というのが非常に多いですね。中学校はそれがありませんが、小学校は多いなあという印象です。それが結果に出ているのかなと思いました。

19、20ページですが、標題を見ると、児童生徒質問紙のクロス分析と書いており、いくつかの設問をピックアップしていますが、なぜその設問をピックアップしているのかがありません。19ページは課題点ということでまとめることができると思いますが、20ページについても何かピックアップした理由を書いてもらえると、市民の方が見た時にも分かりやすいのではないかと思います。

また、同ページの下部に四角で囲んだまとめがありますが、去年はなかったクロス分析の項目が追加されており、これは分かりやすくして良いなと思いました。

22ページですが、今年は中学校が頑張ってくれたんだなあと分かります。「昨年度課題と捉えていた項目について」の3つのまとめも読む人からすると分かりやすいので、今年はとても分かりやすいまとめをしてくださったのだなと感心しました。ありがとうございました。

新子教育長： 少しICT分野が寂しい気がします。高校は非常に進んでいるので、中学生が高校に行った時に使いこなせないようにならないために、モノはあることですので、力を入れていきたいと考えております。

田中委員： 中学校の方がICTを使いこなせていないという結果が出ていますが、中学校の先生に苦手な方が多いということでしょうか。

小室課長： 中学校は教科指導や入試、テストがあつたりしますので、小学校の方が比

較的使いやすい場面が多いのかなと思います。学校間での差もございます。

西村委員： 今回行った試験は、内容的にいつも子どもたちが受けている試験とは違う特色があって、受けたことがないようなものなのではないでしょうか。

小室課長： 普段の試験より、読み取りが必要で、じっくり取り組む必要がある問題が多くなっています。最近はこのような読み取りが必要な問題が増えてきております。

西村委員： 道徳的な内容や、生活の中での経験であるとか、そういったものを持っている子どもの方が、応用ができるのではないかと思います。

また、調査結果を視覚的に分かりやすく図示していただいております。小学校の▼の多さについてショックを受けました。このあたりについても分析をしていただき、分かったことがあれば報告をお願いします。

小室課長： 分かりました。

近藤委員： 去年、一昨年とマスクをしながらの授業の中、先生方は本当に大変だったと思いますが、目標を達成できたようでうれしく思います。特に去年は中学校の結果が振るわなかったとのことで心配しておりましたがほっといたしました。

先ほどからお話に出ているICTの活用が全体として案外少なかったことが残念です。去年、実際に機器が入っているところを見せてもらっていてすごく進んでいると思っていたのですが、学校によって活用状況は少し違うのかなと。使う回数を目的とするのではないし、今後の取り組みのところにもあるように、効果的な活用を取り入れやすい部分から広げていって欲しいと思います。

また、先ほどから話題に上がっております小学校の算数の調査については良い結果ではなかったのですが、算数はタブレットを使用した授業とも相性がよいですし、できる限り多く取り入れて欲しいと思います。子どもたちもタブレットを使うのを楽しみにしているし、興味を引くものでありますので、是非そのあたりも推進していただけたらうれしいです。

23ページの今後の取り組みの「家庭にお願いすること」の項目ですが、ここに書いてあることを踏まえて、学校から保護者に具体的にお知らせはありますか。ここに書いてある文章を読めば理解はできますが、実践するのは難しいなど。実践していく上では「早寝早起き朝ごはん」みたいに簡単でないと、文章を読んでそうだなと思っても、すぐに忘れてしまうようなことになってしまうので、「学年×10分」のような具体的なかたちで保護者のみなさんにお伝えできたらと思います。

また、「家庭にお願いすること」の最後に「タブレット端末などのICT機器を活用し」とありますが、学校のタブレットは各家庭に貸し出しはしているのですか。

小室課長： 今は持って帰ってもらっています。私の勤務していた中学校では週末にタブレットを持ち帰らせ、週末課題をタブレットでやるようにしていました。ただ、先ほども申しましたように、学校によって格差がある現状です。小学校でも持ち帰って活用しているところがあると聞いております。

田中委員： 小学校も中学校もよくなっている部分があります。よくなった原因も分析しておき、それを伸ばしていくことも大切かと思います。やはり悪いところばかりに目

がいつてしまいがちですので。

新子教育長： 毎年、大阪府・全国・柏原市それぞれの結果に浮き沈みがありますが、分析を行うようにいたします。他にご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

委員 全員： なし。

新子教育長： ないようでございますので、議案第 27 号令和 4 年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員 全員： 異議なし。

新子教育長： それでは、議案第 27 号令和 4 年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容については原案どおり承認することにいたします。本日の議事案件は以上でございます。

(教育月間全体会について指導課より、認定こども園等入園願書受付及び内定状況についてこども施設課より、市町村教育委員会研究協議会への参加報告について西村委員よりそれぞれ報告)

以上で第 9 回定例教育委員会会議を閉会いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員